

受験生の2学期の過ごし方

開倫塾

塾長 林明夫

1. 9月～12月の模試で希望校に合格するに値する十分な偏差値を取ろう。

私立高校受験の際は、中学3年時の模擬試験、とりわけ9月～12月の模擬試験の成績を中学校側が高校側に資料として添付することが通常行われているようです。とりわけ、私立単願試験では、模試での十分な成績が、合格の条件になっているようです。

そうであるなら、実質上の高校入試は9月の模擬試験から始まっていると言って過言ではありません。高校受験生は、全力をふりしぼって模擬試験対策を行う必要があります。

ただ、模擬試験で十分な偏差値を取るにはそれなりの勉強方法があります。普通に机に向かっていたのでは余り効果は上がりません。開倫塾では、模試の重要性を充分認識し、万全の対策を毎日の授業や指導の中に盛り込んでいきますので、どうか安心してついてきて下さい。開倫塾の夏休み中の夏期講習、8月分授業、9月からの授業、10月から始まる土曜ゼミナール（英数国の弱点分野克服のための特訓コース）等々は、すべて9月からの模試で十分な偏差値を取ってもらうためのものです。開倫塾の勉強を受験勉強の中心にして下さい。テキストの予習を十分にすること、宿題を確実に終了させること。授業中は真剣にきくこと。まちがった問題の問題番号には印をつけておき、授業後特に念入りに復習すること。十分理解できないところは遠慮せず授業終了後先生に質問すること。開倫塾模試は、出題範囲表に基づいて十分勉強をしてから臨むこと。模擬試験の問題用紙はキチンと保存し、返却された解答用紙とセットすること。いつも模擬試験で間違える問題は、各科目ごと間違いノートを作成し、まとめておくこと。

模試の偏差値を一定レベル以上にあげるためにやらなくてはならないことはこの他にもたくさんあります。自分にできる範囲内のことを十分計画を立て実行して下さい。やり方がわからなければ開倫塾の先生にどんどんきくこと。

2. 2学期の中間・期末試験で100点満点を取ろう。

中学から高校に送られる資料の中に内申書があります。とりわけ中学3年時の評価は最重視されます。9科目とも手を抜かず教科書の勉強をしなければなりません。提出物もすべて提出しなければなりません。実技も十分練習してから発表に臨まなければなりません。とにかくまじめな授業態度で、真剣に、すべての科目に取り組んで下さい。今まで授業中うるさかった人は、「あの子は2学期になったら人が変わった。さずが受験生だ。」とすべての先生方から職員室で評判になるくらいまじめな態度で授業に臨んで下さい。『ハイ』という返事をよくし、授業中は一切おしゃべりをせず真剣な目で先生の目を見、ひたすらノートをとり、提出物は忘れることなく、テストでは100点を取れば、今までのことはともかく、一気に内申点は上がります。

一度まじめに学校の授業と取り組む「訓練」ができれば、中学卒業後、高校や大学に行っても非

常に勉強が楽しくなります。どんな先生でも自分が現在教えている子どもの学力向上を一番願っているのですから、真剣にきけば必ず得るものが山のようにあります。

*あたりまえのことですが、学校の先生は学校での自分の担当科目の授業に全力を傾けています。学識・経験も豊富で、十分授業の技術も身につけています。子どもたちを向上させてあげたいという熱意にあふれています。日本中の納税者は、子どもたちに十分な教育を受けてもらいたいと税金を払い続けています。「日本の学生」はいくらでも自分の学力を高めることが学校でできます。どうか、まじめに授業を受けて下さい。まじめに授業を受けることを「いい子ぶる」などといってイジメの対象にするなど「もってのほか」です。先生方に対し、又、税金を払い続ける納税者に対し、失礼極まりないことです。少なくとも開倫塾で勉強する塾生の皆さんは、学校でも真剣に勉強をし続けて下さい。まじめに勉強することは学生として当たり前のことなので、誰が何と言おうと、学校の授業に真剣に取り組んで下さい。

3. 受験生にとって2学期は最も忙しい時期。自分を見失わないように努めよう。

実質上の高校入試とも言える模擬試験が9月以降1ヶ月に1～2回行われ、内申点を大きく左右する2学期中間・期末試験に付け加え、実用英語検定、秋の大運動会、文化祭はじめ各種行事が目白押しなのが2学期です。進学についての保護者会、三者面談も頻繁に開かれます。文化部に入っている人は発表会すらあります。

中学3年生の2学期ほど忙しい時期はないと言えます。中学卒業後の進学先を決めるのに一番重要な時期であるにも関わらず、だまっていると何がなんだかかわからないうちに過ぎてしまうのが中3の2学期です。そこで、どのように毎日を過ごせばいいのかを次に述べさせていただきますので、十分参考にして下さい。

(1)規則正しい生活を送る。起床時間、就寝時間を明確に決め、その通り実行する。但し、朝起きる時間と夜寝る時間は決して無理な時間帯を選ばないこと。今までできなかったことは初めからしないこと。

(2)決まった場所で決まった時間に机に向かう。勉強する場所をあちこち変えない。一定の時間になったら必ず机に向かう「訓練」をする。受験生であるのにTVやコンピューター・ゲームなどに夢中になって多くの時間を使っているようでは、他の人がその時間勉強しているため、差がつく一方。合格はおぼつかないと言えます。合格したかったら勉強すればいいし、希望校に行きたくなければ、勉強以外のことに時間をたくさん使えばよいとさえ言えます。

(3)勉強時間の絶対量を確保すること。受験勉強に頭の良し悪しは関係ありません。合格しようと言う気力だけで十分です。気力が充実していれば集中力が身につく長時間しても何ともありません。受験勉強で最も大事なものは「勉強時間の絶対量」つまり「長時間歯をくいしばって勉強し続けること」です。いくら効果の上がる学習方法をとっても勉強の時間が短ければ実力は身につくません。もっと言えば、今まで余り勉強してこなかった人も、この8月から必死になって長時間学習を受験までし続ければ、いくらでもこのへんの高校入試なら合格できます。必死にやれば偏差値を10以上アップさせることすら可能です。とにかく、どのようにしたら勉強時間をたくさんとることができるかを十分考えることが大事です。長時間集中して机に迎える習慣さえ身につ

けば、安心して2学期が乗り切れます。

(4)悩まないこと。イライラしないこと。毎週のようにいろいろなテスト結果が返却され、毎週のように試験に類するものが行われるのが2学期です。そのたびごとに悩んだり、イライラしたりしたのでは余りにも時間ももったいない。一つ一つのテストに対しては、できるだけの準備をして臨む。テストが終わったら、できなかった分野を十分復習する。解説付きのテストならテスト終了後、まちがった問題を十分研究し、「まちがいノート」に問題と解答を書き写す。できるだけ事務的に事柄を処理して、テストがあったり、テスト結果が返却されるたびに「なやんだり」「イライラしたり」しない。開倫塾では「悩む時間は30分まで。いくら悩んでも学力は身につかない。悩むヒマがあったら机に向かい次の勉強をしよう」を、合いことばに「悩む時間の短縮」を呼びかけています。どうしてもよいかわからなかったら、自分一人で悩まず、開倫塾の先生方にどんどん相談して下さい。

(5)いろいろな情報に振り回されないこと。友だちからの情報はきいてもキリがないこと。又、誤っていることが多いので、十分注意のこと。本当に知りたいことがあったら、学校や塾の先生に直接聞いてみることに。